

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことば音楽療法教室みそら（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	6年 12月 3日 ～ 6年 12月 17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33人	(回答者数) 29人
○従業者評価実施期間	6年 11月 27日 ～ 6年 11月 29日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 17人
○事業者向け自己評価表作成日	7年 1月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語訓練を主に行う事業所なので、保護者の相談で一番多い発語に特化した支援ができる。	言語訓練と言っても、机上の学習ばかりではなく、学習の基礎でもある身体の土台からのアプローチを行うようにしている。音楽に合わせて楽しく身体を動かすことや、いろんな楽器を使って手の操作性、粗大運動、力のコントロールなど、楽しんで取り組めるようにしている。「やらされている」という気持ちにならないように工夫している。	支援のプログラムに変化をもたらし、利用者自身が「やってみたい」と思えるような内容にする。 未就学児の場合はあそびが大事になるので、遊び感覚でできることを取り入れるようにする。
2	個別療育を行っているので、利用者の今に合わせた支援が行える	利用者の今に合わせた支援が行えるので、必要などころにしっかりとアプローチすることができる。 決められたプログラムをこなすことが目的ではなく、利用者が今何をしたいのか、どう考えているのかを観察し、瞬時に対応することでコミュニケーション力を向上させることができる。	未就学児の心を瞬間的につかめるように、支援員自身の引き出しをたくさん持つようにしていく。
3	保護者に同席してもらうので、療育内容を見てもらいながら話すことができ、保護者からの相談に常に対応することができる	利用者への療育をする支援員と保護者対応を行う支援員の両方を配置することで、いつでも相談にのれる体制を作っている。 未就学児の子育てで何が大事なのかもお伝えできるようにしている。	入学に向けての相談が多いので、保護者の話をしっかりと傾聴し、必要な情報を提供できるように、支援員が福祉・教育についての勉強を行うようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	40分の個別療育なので、長時間のお預かりでの療育ができない。	個別で向かい合う時間は短い、その分未就学児1人に対して、支援員3人で行う場合もあり、ベクスやその他の取り組みなどに複数人で関われる良さがある。 集中できる時間が40分と限られているので、利用者自身もここだけがなれば遊べる、という気持ちになりやすい。	長期休み等を活用して、1時間～1時間30分ほどの集団療育も定期的に行うようにしている。
2	送迎を行っていないため、フルタイムで働かれている保護者には利用が難しい。	平日の利用が難しい方には、土日祝の利用をお願いしている。	どの曜日に利用していただいても、しっかりと利用者に向き合えるように支援のスキルアップ研修を行うようにしている。
3	着替え・食事・トイレトレーニングなどの支援を行う時間がないため、そこへの支援が難しい。	療育が始まる前の手洗いや、靴の脱ぎ着、上着の脱ぎ着などの支援は行うようにしている。	視覚的な支援を用いて、わかりやすく伝えるように工夫している。